

1. プログラム概要

このプログラムは、日本語教師として高度な専門的知識や技能を求めるもので、かつ日本語教育の実践において実現したい日本語教材制作、教授法、カリキュラムの開発等の課題や解決したい問題点を具体的に有するもの(個人又はチーム)を対象に行う研修で、自立的な問題解決能力の育成を目的とします。

具体的なプロジェクトの達成を目的としたチームの参加も可能です。プロジェクト・チーム全体の人数は問いませんが、研修に参加できるのは1チーム上限3名までです。

この研修には、日本語の母語話者、非母語話者を問わず、申請が可能です。

2. 申請資格

海外で日本語教育を行う教育機関(個人からの申請は受け付けません。チームで申請する場合は、チームの責任者が所属する日本語教育機関が申請機関となります。)

このプログラムに申請できる者は、次に掲げる要件を全て満たしていなければなりません。

- (1) 申請者は(チームの場合は全員が各々)申請機関と雇用関係にある日本語教師で帰国後も当該機関に引き続き勤務することが決定していること。常勤講師を優先する。
チーム申請の場合、必ずしもチーム全員が同一国の日本語教育機関に所属していなくても構わない。
- (2) 日本語能力試験N1(旧日本語能力試験1級)程度以上の日本語運用力を持っていること。(日本語能力試験の各レベルの認定の目安は日本語能力試験公式ウェブサイトの「N1～N5:認定の目安」<http://www.jlpt.jp/about/levelsummary.html>を参照。)
- (3) 2011年(平成23年)12月1日現在、日本語教授歴5年以上であること。(個人教授期間は含まない。)
- (4) 2010年(平成22年)10月から2011年(平成23年)12月1日までに国際交流基金(以下「基金」、日本の大学等において2か月間以上継続して日本語教師研修(海外日本語教師研修 短期)を含む。)を受講していないこと。
- (5) 2011年(平成23年)12月1日現在、満30歳以上満55歳以下であること。
- (6) 日本と国交のある国の国籍を有すること。ただし、台湾の方も申請可能です。
- (7) 心身ともに健康であること。

3. 実施時期

2012年(平成24年)10月24日(水)～12月20日(木)(予定)

4. 実施場所

国際交流基金日本語国際センター(埼玉県さいたま市浦和区北浦和)

5. 研修内容

申請時に提出された課題実現や問題解決についての計画書に基づいて、授業、個人指導や研修参加者間の議論を通して研究活動を進めていきます。計画書のテーマとしては、教授法研究、シラバス開発、教材作成計画等多様なものが考えられます。研修の成果は、帰国後1年以内にレポートとして提出することが求められます。また、最終的には、研究論文、シラバス、教材等として公表、出版することが期待されます。

なお、長期間に渡る調査や作業を要し、再度訪日しての研修に大きな効果が認められる場合、翌年度以降の同研修に再度参加することが認められる場合もあります。

6. 採用人数

10件(個人もしくはチーム)程度

2011年度(平成23年度)実績 採用11名(6チーム) / 応募34名(26チーム)

7. 選考方針

申請資格を満たしている候補者に対して、研修の(1)必要性、(2)有効性、(3)効率性の3つの観点から審査。

(1)に関しては、当該国での日本語教授研修の重要性、また基金の日本語事業計画を実施する上での必要性等の点から評価します。

(2)は候補者個人の当該国日本語教育界におけるポジション、影響力等によって審査します。

(3)に関しては、候補者本人の日本語運用能力、特に申請しているプロジェクトの遂行能力等から研修の効率性を審査します。

8. 過去に採用されたプロジェクト例

プロジェクト名	種別	国
聴解教材作成(日本語専攻の大学生対象)	教材開発	中国
総合教科書作成(高校生対象、第2外国語教育用、初級)	教材開発	中国
聴解教材作成(インドネシア向け、独習用、テスト開発)	教材開発	インドネシア
シラバス及び総合教材(日本語既習の大学1年生対象)	教材開発、シラバス・カリキュラム開発	ベトナム
ビジネス会話教育教材作成	教材開発	マレーシア
聴解・読解能力のためのコースデザイン・指導法(web上のニュース活用)	シラバス・カリキュラム開発	ミャンマー
シラバス・カリキュラム開発(学士課程対象)	シラバス・カリキュラム開発	バングラデシュ
Interactive Japanese()の教材、副教材(動画、音声)	教材開発	カナダ
日本留学を容易にするためのカリキュラムと教材(CEFR対応)	教材開発、シラバス・カリキュラム開発	英国
工学系学生の副専攻としてのカリキュラム検討、最終試験作成	シラバス・カリキュラム開発	スウェーデン

9. 日本語国際センター負担経費

日本語国際センターの規定に基づき以下の経費を負担します。

- (1) 次に掲げる地域に所在する国の国籍を有する者には、居住地最寄り国際空港からの往復航空券(原則として、ディスカウント・エコノミークラス)、出国税及び空港利用税、研修補助費(来日中の自主研修に必要な公共交通機関の交通費及び通信費等を現物で支給)。

アジア・大洋州地域(韓国、台湾、シンガポール、ブルネイ、オーストラリア、ニュージーランドを除く。ただし、中国・香港は英国 BNO 旅券及び香港 SAR 旅券保持者を、中国・マカオはマカオ SAR 旅券保持者を、それぞれ除く)、中南米地域(パハマを除く)、東欧地域、中東・北アフリカ地域(アラブ首長国連邦、イスラエル、カタール、クウェート、サウジアラビア、バーレーンを除く)、アフリカ地域

* 日本国籍を有する者は、上記の地域の在住者を対象に国際交流基金が負担。

* 上記の地域に所在する国以外の国籍を有する者は、参加者本人が負担。

- (2) 日本語国際センター内の宿舍(シングルルーム)
- (3) 研修期間中の食事
日本語国際センターは研修参加者に対し、朝食・昼食・夕食を現物又は現金で支給します。
- (4) 研修に参加するための必要経費(教材費等)
- (5) 研修参加に必要な期間中の疾病及び傷害に対する海外旅行保険の付与(補償額の上限あり。既往症や歯科治療等は当該保険の適用対象外)

10. 研修参加者の義務

研修参加者は以下の条件を守らねばなりません。

- (1) 日本滞在中は日本国法令を守ること。
- (2) 研修に専念し、日本滞在を他の目的(宗教的あるいは政治的目的等)に利用しないこと。
- (3) 研修参加者は、集団での研修に参加することを前提に招へいされたことを理解し、日本語国際センターの指示に従って、すべての研修活動に参加すること。
- (4) 原則として、研修期間の開始より前に来日しないこと。
- (5) 原則として、研修期間中に一時帰国や第三国への旅行をしないこと。
- (6) 日本語国際センターが滞在延長を許可した場合を除き、研修期間が終わり次第、直ちに帰国すること。
- (7) 家族を同伴しないこと。

11. 申請手続

- (1) 申請書は 2011年(平成23年)12月1日必着で最寄の基金海外拠点又は在外日本公館に提出して下さい。台湾は、(財)交流協会の台北事務所に提出して下さい。
- (2) この申請用紙は全部で8ページです。
- (3) チーム申請の場合、代表責任者1名より4、5ページは共通で1部を提出、各個人のデータである1-3、6-8ページは人数分を提出してください。

- (4) 4 ページ目の「計画書」に関して、プロジェクトが調査研究の場合は 4A、教材・シラバス・カリキュラム等の開発・作成の場合は 4B を使用してください。
- (5) 申請する際には、この申請書の原本及びそのコピー1部を、それぞれホッチキス止めの上、提出して下さい。また必ず申請者本人の控えとしてコピーを手元に残しておいて下さい。

12. 申請書記入上の注意

申請書は、「英語」や「原語」等の指示があるところ以外は日本語で記入して下さい。特に計画書については、全て日本語で記入して下さい。また、記入にあたっては、ほかの人の助けは借りず、自分の力だけで書いて下さい。

13 申請受理通知

申請書の受理通知を希望する申請者は、はがきに返信用切手を添付の上、住所、氏名、プログラム名、受理通知を希望する旨を記載して、申請書に同封してください。基金海外拠点・在外日本公館の担当者が申請書を受領したことを証するために、署名して返送します。ただし、返信用切手が貼っていないもの、必要事項が記載されていないものは、返送しませんので、ご注意ください。

14. 審査・合否通知

日本語国際センターで審査を行い、2012年(平成24年)4月中に結果を各申請者に通知します。また、審査に際しては、当該国での日本語研修会や日本語教師養成等、日本語教育支援活動への取り組みが積極的な機関を優先します。

申請者は、「海外日本語教師研修」及び「日本語教育指導者養成プログラム(修士コース)」にも同時に申請はできますが、複数のプログラムに合格した場合でも、同一年度には一つのプログラムしか参加できません。

なお、採否理由等についてのお問い合わせには一切応じられませんのでご了承下さい。

15. 事業に関する情報の公開

- (1) 採用された場合、申請機関の名称等の情報は、「国際交流基金日本語国際センター事業報告」及び基金ホームページ、その他の広報資料において公表されます。
- (2) 「独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律」(平成13年法律第140号)に基づく開示請求が基金に対してなされた場合には、同法に定める不開示情報を除き、提出された申請書類等は、開示されます。

16. 個人情報の取扱い

以下の内容を、申請機関から候補者にお伝えくださるようお願いいたします。

- (1) 基金は、2005年(平成17年)4月1日に施行された「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」(平成15年法律第59号)を遵守し、個人情報を取り扱う際には、適正な収集・利用・管理を行います。基金の個人情報保護への取り組みについては、以下のウェブサイトをご覧ください。
<http://www.jpff.go.jp/j/privacy/>
- (2) 提出された申請書及び関連書類は一切返却いたしません。
- (3) 申請書に記入される連絡先に、他の基金事業についてご案内をお送りすることがあります。
- (4) 採否審査のため、申請書及び推薦書を外部有識者等に提供することがあります。

- (5) 採用された場合、研修参加者の氏名、国名、性別、所属機関、プロジェクトの種別、テーマ、研修期間等に関する情報を研修実施案内に公表するほか、日本語国際センター事業報告、事業実績、ホームページ、申請要領等に公表することがあります。また統計資料を作成し国際交流基金年報、事業実績、ホームページ等に掲載するために利用します。
- (6) 事業評価及び学術研究の統計資料作成のため、採用者及び所属機関の情報を利用することがあります。
- (7) 研修実施のため、採用者の氏名、国名、性別、生年月日、自宅住所、所属機関、研修期間等に関する情報を以下の機関に提供します。
- ・日本国外務省及び関連各在外日本公館(ビザ手配及び参加関連書類送付のため)
 - ・保険会社及びその代理店(海外旅行傷害保険加入のため)
 - ・関係各航空会社(航空券手配のため)
 - ・関係自治体、文化・教育団体(各種文化プログラム実施のため)
 - ・関係国内運送会社、宿泊施設等(研修旅行等の実施のため)
- (8) 本研修に応募された方は、上記目的での個人情報の利用に同意したものとみなします。

海外日本語教師上級研修プログラム 申請書

ADVANCED TRAINING PROGRAM FOR TEACHERS OF THE JAPANESE-LANGUAGE APPLICATION FORM

NC-AJT

2012 年度(平成 24 年度)用
For Fiscal 2012-2013

国際交流基金

申請書を国際交流基金(以下「基金」という。)の海外拠点又は在外公館に提出してください。台湾所在の機関は(財)交流協会の台北事務所に提出してください。基金本部・附属機関では海外からの申請を受け付けません。また、海外拠点又は在外公館に申請する旨を事前に連絡していない場合は、申請書を提出しても無効となることがあります。インターネットやメールによる申請書の提出は受け付けません。タイプライター又はボールペンを用いて活字体で記入してください。

Applications should be submitted to the Japan Foundation office in your country, or, if the Japan Foundation has no office in your country, the nearest diplomatic mission of Japan. In Taiwan, applications must be submitted to the Interchange Association, Japan, Taipei office. The Japan Foundation Headquarters in Tokyo and affiliated organizations will not accept applications from overseas applicants. It is also necessary to contact the overseas agency mentioned above to inform them of your intention to apply *in advance of submitting your application*. Applications will not be accepted through the Internet or by e-mail. This application form should either be typed or handwritten using block letters with a ball-point pen in black ink.

国際交流基金日本語国際センター所長殿

To the Director of the Japan Foundation Japanese-Language Institute, Urawa

年 月 日
Year Month Day

私は平成 24 年度海外日本語教師上級研修に下記の者を参加させたく申請いたします。

I hereby elect the person named below to participate in the 2012-2013 Advanced Training Program for Teachers of the Japanese-Language.

機関名 _____ 代表者署名 _____
Name of Institution Signature of the Representative of the Institution

代表者氏名 _____
Name of the Representative of the Institution

候補者(以下は候補者が記入のこと。なお、申請書に記入される個人情報の利用目的については、申請要領の「16. 個人情報の取扱い」をご覧ください。)
CANDIDATE (The following form should be filled in by the candidate. For details on the use of personal information included in the application form and attached documents, please see "16. Handling of Personal Information" in the Application Instructions.)

氏名 Name	漢字又はカタカナ In Kanji or Katakana	姓	名									
	ローマ字 In Roman alphabet	Last Name	First Name									
	パスポートに記載の表記 Name as written on your passport in Roman alphabet											
性別 Sex	<input type="checkbox"/> 女 Female	<input type="checkbox"/> 男 Male	生年月日 Date of Birth	19 年 月 日 Year Month Day	年齢 Age	2011 年 12 月 1 日現在 As of December 1, 2011	国籍 Nationality	歳				
連絡可能な住所(ローマ字) Contact Address (in Roman alphabet)												
Tel.			Fax.			E-Mail.						
		所属日本語教育機関名 Affiliated Institution	部門名 Faculty/ Department/ Program, etc.		地位 Position	常勤/非常勤 Full time or Part time						
漢字又はカタカナ In Kanji or Katakana												
英語 In English												
原語 In Native Language												
所属日本語教育機関住所 Address of Affiliated Institution												
				Tel.					Fax.			
学士 BA	機関名 Name of institution					取得地 Location						
	取得年 Year of completion		学位 Degree conferred			専攻 Major						
修士 MA	機関名 Name of institution					取得地 Location						
	取得年 Year of completion		学位 Degree conferred			専攻 Major						

学位修得論文タイトル Thesis title					
博士 Ph.D	機関名 Name of institution			取得地 Location	
	取得年 Year of completion		学位 Degree conferred	専攻 Major	
学位修得論文タイトル Thesis title					

日本語の母語話者である申請者は * 印の欄に記入する必要はありません。
Applicants who are native Japanese speakers need not fill in the columns with*

*日本語学習歴 Previous Japanese language study	期間 Term	総時間 Total Hours	機関名 Institution	使用教材 Textbook	
	From 年(yy) 月(mm)~ To 年(yy) 月(mm)				
	From 年(yy) 月(mm)~ To 年(yy) 月(mm)				
日本語教師 研修受講歴 (国際交流基金日本語 国際センターでの研修を 含む) Training programs for Japanese language teachers undertaken, including the programs of the Japan Foundation	期間 Term	総時間 Total Hours	機関名 Institution	使用教材 Textbook	
	From 年(yy) 月(mm)~ To 年(yy) 月(mm)				
	From 年(yy) 月(mm)~ To 年(yy) 月(mm)				
	From 年(yy) 月(mm)~ To 年(yy) 月(mm)				
日本語教授歴 Japanese language teaching experience	期間 Term	機関名 Institution	対象者 Student		使用教材 Textbook
	From 年(yy) 月(mm)~ To 年(yy) 月(mm)		年齢 Age	レベル Level	
	From 年(yy) 月(mm)~ To 年(yy) 月(mm)				
	From 年(yy) 月(mm)~ To 年(yy) 月(mm)				
	From 年(yy) 月(mm)~ To 年(yy) 月(mm)				
合計 In total 年 月 Years Months					
現在の担当科目 Japanese classes currently taught	科目名 Subject Taught	対象者 Student		担当時間数(週・年) Loading Hours/Week/Year	使用教材 Textbook
		年齢 Age	人数 Number		
				週 () 時間 (per week) 年 () 時間 (per year)	
				週 () 時間 (per week) 年 () 時間 (per year)	
				週 () 時間 (per week) 年 () 時間 (per year)	
日本語以外の 担当科目 Subjects currently taught aside from Japanese				週 () 時間 (per week) 年 () 時間 (per year)	

*国際交流基金日本語能力試験 The Japan Foundation Japanese-Language Proficiency Test		受験年 Test Year	取得級 Passing Grade	認定番号 Certificate Number
日本滞在歴 Previous stay in Japan	期間 Term	日数 Days	滞在目的・受けたグラント・当センター研修会 Purpose; Grant Received, Training Programs at the Institute (if any)	
	From 年(yy) 月(mm)～ To 年(yy) 月(mm)			
	From 年(yy) 月(mm)～ To 年(yy) 月(mm)			
	From 年(yy) 月(mm)～ To 年(yy) 月(mm)			
日本語教育の分野における授業以外での活動歴 (例:開発した教材、日本語教育についての学会・セミナー発表、日本語教師会等での活動歴等) Your contribution to Japanese language education outside the class activities (For example, teaching materials that you have developed, papers on Japanese language education that you have presented at academic conferences or seminars, your involvement in the Association of Japanese Language Teachers or other activities, etc.)		1. 2. 3.		

計画書(調査・研究用)
Study Plan (for Research Paper Writing)

1. 研究の目的と必要性(その研究を行うことによりあなたの国・地域の日本語教育についてどんな課題が解決できるのか)

Purpose and meaning of your project and the outcome you expect for the Japanese education in your country upon completion of the plan.

テーマ Theme of the project	
-----------------------------	--

2. 研究の方法(調査の方法、データの種類、分析方法など)

Methods of the research and analysis

--

計画書(開発・作成用)
Study Plan (for Syllabus & Curriculum Development)

テーマ Theme of the Project						
種別 Category	<input type="checkbox"/> シラバス・カリキュラム開発 Syllabus & Curriculum Development	<input type="checkbox"/> 教材開発 Resource Development	<input type="checkbox"/> その他 Others ()			
使用される言語 Language Used						
対象となる学習者 Target Learners	<input type="checkbox"/> 初等教育 Primary Education	<input type="checkbox"/> 中等教育 Secondary Education	<input type="checkbox"/> 高等教育 Higher Education	<input type="checkbox"/> 成人 Adult Education		
年齢層 Age of Learners						
国籍 Nationality						
母語 Mother Tongue						
日本語学習目的 Purpose of Learning Japanese						
日本語学習段階 Level of Japanese	<input type="checkbox"/> 初級 Beginner	<input type="checkbox"/> 初中級 Beginner - Intermediate	<input type="checkbox"/> 中級 Intermediate	<input type="checkbox"/> 中上級 Intermediate-Advanced	<input type="checkbox"/> 上級 Advanced	<input type="checkbox"/> 超級 Superior

1. シラバス・カリキュラム開発や教材開発が必要な理由を簡潔に述べてください。今あるシラバス・カリキュラムや教材の何が問題なのか。あなたが作ろうとしているものはその問題をどのように解決できるのか、など。

Purpose and meaning of your project, problems of current materials, and the outcome you expect upon completion of the project.

2. 制作物の具体的な内容について、簡潔に述べてください。構成、目次、既存教材にはない特色、あなたの現場の問題解決を図る工夫、など。
 Describe briefly the content of the material you wish to develop, i.e. its structure, contents, characteristic features that current materials lack, how it could solve problems that you are facing now, and so on.

3. 計画の手順 Project Planning

申請時点の進捗状況 Present status of the project
来日までの計画 Preparation before starting the Program
研修中の計画 Agenda during the Program
研修後の計画 Action plans after completion of the Program

上記内容を実現する上で本研修に期待すること(必要な助言・指導等)

What do you expect the Institute to provide to ensure the project goals are achieved? (Advice, guidance, etc.)

--

成果物の公表方法(予定)

How would the results be made public? (tentative)

--

4. 参考にしてしている文献

References

--

日本語教育の分野における過去の業績(論文、学会・セミナー等での発表原稿、作成した教材やカリキュラム等)があれば、そのうち代表的なもので、かつ、なるべく今回の計画に関係のあるものを2点上げて、その概要・要旨をそれぞれ400字程度で記入してください。(概要・要旨については、別紙での添付も可。)

Outline two academic achievements you have made in the field of Japanese language education. If possible, demonstrate how these achievements are related to the project in this application. Academic achievements may include an academic paper, draft paper on Japanese language teaching at academic meetings or seminars, teaching materials or a curriculum you have developed, etc. Write an outline of these achievements in Japanese of around 400 characters in the columns below or on a separate attached sheet.

1. 題名 Theme :

概要・要旨 Outline

[論文・研究発表の掲載誌・学会名等:
Title of Journal /Title of Academic Conference

発表年:]
Year

2. 題名 Theme :

概要・要旨 Outline

[論文・研究発表の掲載誌・学会名等:
Title of Journal /Title of Academic Conference

発表年:]
Year

申請機関の概要 Outline of the Institution

できれば機関の紹介パンフレットなどを添付してください。

Please attach some general information on your institution (introductory brochure, etc.).

機関及び日本語コースの設立の経緯と歴史 History of the Institution and the Japanese Language Course
日本語コースの概要(修学年限、週あたり授業時間数、学習者数等を記入して下さい。) Outline of the Japanese Language Course (state the length of the course, hours of study per week, the number of students.)
学年歴(授業の開始月、修了月及び学期区分を記入して下さい。) Term / Semester (state the beginning and end of each term or semester.)

学生の構成 Attributes of Students AかBのいずれかを選び、 <input type="checkbox"/> に印を付けて下さい。 Please choose A or B and check all appropriate boxes. A.学校教育の場合 Formal Institutional education <input type="checkbox"/> 小学生 Primary-school students <input type="checkbox"/> 中学生・高校生 Secondary-school students <input type="checkbox"/> 大学生 University/College students B.学校教育以外の場合 Education other than formal institutional education <input type="checkbox"/> 年少者(小・中・高校生を含む) Children <input type="checkbox"/> 成人(大学生含む) Adults

日本語教育スタッフ(候補者を含め全員記入して下さい) Staff of the Japanese Language Course including the candidate.

氏名 Name	地位 Position	専任・非専任 Full-time or Part-time	年齢 Age	日本語 教授年数 Experience as a Japanese language teacher	対象 者数 Number of students	週あたり 時間数 Hours per week	年時間数 Hours per year	国際交流基金 研修参加年 Year of participation in JF program, if applicable

海外日本語教師上級研修参加推薦書

Advanced Training Program for Teachers of the Japanese–Language: Recommendation Form

候補者名 Name of the Candidate		
推薦者 Recommender	氏名 Name 現職 Position 所属機関 Instituon	住所 Address Tel. Fax.
<p>1. 推薦理由(機関の責任者として、どのような方針のもとに候補者を推薦したか説明して下さい。) As the representative of the institution, please explain on what basis you are recommending the candidate.</p> <p>2. 当研修に参加した場合に、あなたの機関に期待される効果 Please explain the outcome you expect the candidate's participation in this program to have on your institution.</p> <p>推薦にあたり、候補者は私が代表を務める機関と雇用関係にあり、研修会参加後もこの関係は継続することを確約いたします。 On this recommendation, I hereby declare that the candidate is an employee of our institution, and he/she will continue to work at the institution upon his/her return to the home country.</p> <p>日付 Date _____</p> <p>署名 Signature _____</p>		

・採否審査のため、この推薦書を外部有識者等に提供することがあります。

In some cases, this recommendation form may be provided to outside consultants during the screening process.